

2023（令和5）年度

全国地域青年「実践大賞」

募集要項

私たちは、青年たちの「やりたい」が詰まった実践を募集しています。

全国各地にあるこれらの実践は

「今を生きる青年たちだけでなく、未来を担う子どもたちにとってもかけがえのない宝である」と
私たちは確信しています。

全国で活動する青年たちは、日頃の生活のなかで、地元住民との交流や活動などの実践を通じ、
地域を盛り上げる重要な役割を担ってきました。

これらの貴重な実践は、活動している青年たち自身にとっては当たり前のことであっても、
周りの地域や青年たちから見れば新しい学びになります。

こうした学びが結ぶ新たなつながりは、青年団や地域おこしに携わる各地の青年たちにとって、
新たな実践の発掘や郡市町村を超えた絆が生まれる機会にもなっています。

この度、私たちは様々な地域で展開される特色ある実践を集めることで、
相互に学び合い、地域での活動や青年たちの生活をより豊かにするため、
2023（令和5）年度全国地域青年実践大賞を開催いたします。

主 催

日本青年団協議会、一般財団法人日本青年館

目次

1. 対象（推薦される団体）……………	1	8. 表彰……………	5
2. 応募内容……………	1	9. 副賞……………	6
3. 推薦方法・推薦団体……………	3	10. 表彰式……………	6
4. 必要書類……………	3	11. 展示会……………	7
5. 締切日……………	4	12. 雑誌「社会教育への掲載……………	7
6. 審査……………	4	13. 応募・問合せ先……………	7
7. 発表……………	4	お申込書・提出書類がお手元がない方へ……………	8

はじめに

1987年度から「日青協顕彰制度」として始まった本事業は、名称や対象等、時代にあわせて形を変え、全国地域青年「実践大賞」として、今日まで実施してまいりました。

より多くの地域青年たちが、日頃の活動を仲間と共に振り返り、審査員の講評を通じて自身の活動に希望を持つだけでなく、新たな仲間の実践を地元を持ち帰り、励みにしていく。そしてまた、次の活動へつながっていく…。そうしたサイクルが生まれるよう、この度、下記の通り改正いたしましたので、ご注意ください。

<改正のポイント>

① 応募部門の撤廃

2022年度以前は、申込時に「地域活動の部」「教宣活動の部」のどちらか一方を選択していた。しかしながら、審査を通じて、応募団体が気づけなかった、部門の枠にとられない活動の魅力の発見ができたと声が寄せられた。また、応募部門の観点に左右されることなく活動全体を振り返り、応募することで、応募団体の自信につながることをめざし、部門制度を撤廃することとした。

② 表彰制度・副賞の充実化 ……>詳細は、「8. 表彰」「9. 副賞」をご覧ください

部門別の表彰をなくし、新たに審査員賞を設けるものとする。これにより、応募があった実践に対し、特化した表彰を柔軟に行っていく。

POINTS !!!!!!!

過年度より大きな変更があります

1. 対象（推薦される団体）

青年や青年団体が自主的に取り組む活動実践で、2023年1月から12月までに完了しているもの、もしくは、2023年度内に完了予定のものを対象とします。ただし、当該年度内であれば、応募時以前・以降にわたる継続的な活動や取り組みを推薦してもかまいません。一つの団体から複数応募することも可能です。

2. 応募内容

地域おこしや地域づくり活動や、いわゆる教宣活動「仲間の声や思いを引き出し広めるような活動、自分たちをPRする活動など」に通じる実践。

◇**実践例**:子どもや高齢者など多世代との交流を交えた実践、
地域の抱える課題に視点を置いた地域づくりの実践、
伝統文化や郷土芸能など、地域の芸能を舞台にした実践（芸能保存会事業など）、
地域からの要請に応える事業（スポーツ大会、文化祭等含む）、
地域で活躍する他団体と一つの目標に向かって協力し合った事業、コロナ禍における実践、
機関紙（誌）、ポスター、チラシ、活動時に作成したグッズ、ユニフォーム（Tシャツ）、映像、
WebサイトやSNS、その他

◇**過年度表彰実践**:昨年度の応募作品のなかから、優れていると審査された表彰をご紹介します。

()内は実践された県名を表記しています。

・小豆島町青年団（香川県）



↑2023年度「実践大賞」受賞

あんどんまつりは、地域おこし協力隊員や神社、住民と連携したイベント。島じゅうの小学生がつくったあんどんは、海で囲まれた暗い島を温かな光で照らした。

・舞鶴町青年会（大分県）



↑2023年度「教宣大賞」受賞

長濱祭の夏季大祭の企画・運営だけでなく、お囃子の継承者として地元の子供たちに体験教室等も実施。コロナ禍中は電子決済による賽銭方法を生み出すなど時代の流れにあわせた創意工夫垣間見れる。

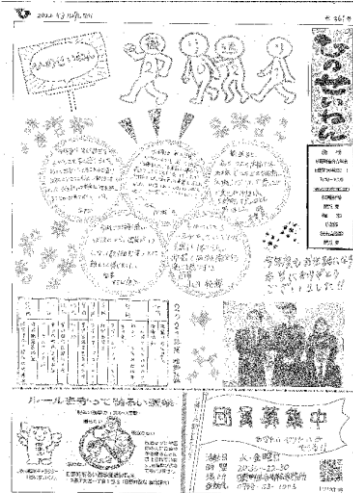
・南陽青年団（山形県）



↑2023年度「準実践大賞」受賞

南陽市教育委員会と連携し、地元高校生向けのワークショップを実施。活動に関わった生徒にとって、青年団は、家庭と学校以外の第3の居場所となっている。

・日野町連合青年会（滋賀県）



↑2023年度「教宣奨励賞」受賞
50年以上にもわたり手書きの機関紙「ひのせいねん」を発行。町民の家にも配布される本誌は、活動内容だけではなく町のイベント情報等も掲載された情報誌でもある。

・新見公立大学ヤヒロラボ（静岡県）



↑2022年度「実践奨励賞」受賞

2022年9月に静岡県を襲った台風による甚大な被害を受けた川根町で、地元青年団や住民と協力し災害支援活動を行った。物資の供給や募金活動、現地ではがれきの撤去作業や川根茶畑や住宅をはじめとする町内の復旧活動を行った。

・鯖江市連合青年団（福井県）



↑2020年度「教宣大賞」受賞

コロナ禍で行われた地元の成人式で配布するマスクケースと団員募集のチラシを製作。情勢にあわせた実践は、地元青年や故郷に帰ってきた青年たちの成人を祝いながら、新たな団員獲得をめざす取り組みである。

◇参考：より詳細な過去の受賞実践については右記 URL より報告書をご覧ください

・URL：

https://www.dan.or.jp/intro/jissen/2022/2022jissen_report.pdf

・QRコード：右記

・インターネットで「日本青年団協議会」と検索し、「活動・事業紹介」タブから、「2023（令和5）年度全国地域青年「実践大賞」」をご覧ください。過年度報告書が掲載されております。



3. 推薦方法・推薦団体

推薦できる団体（推薦団体）は、原則下記のとおりです。推薦団体は、【4. 必要書類】を添えて日本青年団協議会事務局に期日までに送付してください。

- ① 日本青年団協議会または日本青年団協議会に加盟する道府県団
- ② 各都道府県教育委員会、各市区町村教育委員会

※自薦・他薦は問いません。

4. 必要書類

① 「推薦書」

【3. 推薦方法・推薦団体】は、推薦書を記入し、推薦される実践のアピールレポートや出品表等の提出書類をお送りください。

② 「アピールレポート」

自由記述、設問ありの2種類の書式のうち、どちらか一つの様式のみご使用ください。内容はできるだけ具体的に記述するようお願いいたします。写真を添付する場合は、本文中に写真を挿入するか、別シートを作成し写真を貼付してください。

③ 「出品表」

アピールレポートのほかに、作品やチラシ等、制作物がある場合は、出品表にて作品の詳細を明記し、ご提出ください。

- ④ 上記のほかに、活動の様子がわかる写真（数点）と新聞掲載記事など応募された実践の内容がわかる資料がありましたらアピールレポートの Excel シートに貼付してお送りください。

※一つの推薦団体から複数実践を応募される場合は、一括申込書を別途お送りいただきますようお願いいたします。

＜アピールレポート記入の秘訣＞

書くことが活動の振り返りもつながりますので、団員みんなで議論しながら思う存分活動のアピールを考え、次年度以降にさらによい活動にするには、といった話もしていきましょう。第三者に向けて、その実践の内容や魅力を文章で伝えることをふまえ、適度な長さで読みやすい文章作成を意識しましょう。

- 取り組んだ動機、目的、趣旨、ねらいを明らかにしてください。
- 活動の具体的な経過を、団体内の動きと対外的な取り組みの両面から明らかにしてください。
- その活動によって、携わった仲間たち、参画した地域住民、地域社会にどのような影響や成果を与えたかを明らかにしてください。
- 文章が独りよがりになっていないか、読みづらいところはないか、もう一度読み直して、自分で推敲してみましょう。人に伝わる文章をつくるうえでは、声に出して読んでみることも効果的です。
- 過年度実践大賞で「大賞」を受賞している団体のアピールレポートを参考にしましょう。過年度報告書は日本青年団協議会 Web サイトからご覧になれます。

BIG CHANCE!!!!!!

審査員が判断する高評価のポイントです

5. 締切日

2024（令和6）年1月22日（月）必着

6. 審査

応募いただいた実践は、日本青年団協議会役員・有識者で構成する審査会にて、2月に審査を行います。

7. 発表

2月上旬ごろに予定している審査会終了後、該当する団体および推薦団体（教育委員会含む）に直接通知するほか、日本青年団協議会公式Webサイト(<https://dan.or.jp/>)をはじめとする各種 SNS 上で公表いたします。

※WebサイトQRコードは右記



8. 表彰

【大賞】

活動に常時または定期的に取り組み、地域に大きく貢献し、集められた実践の中で最も優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

【準大賞】

実践大賞に次いで優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

【奨励賞】

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。

【審査員賞】

審査員賞は、応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。賞名や副賞の内容は審査会で決定いたします。

【特別賞】

・田澤義鋪賞

一般財団法人日本青年館より、明正選挙運動、地方自治、地域振興などに取り組み優れた成果をおさめた団体に授与されます。

・全国青年団OB会奨励賞

全国青年団OB会（青年団OB・OGの連絡組織）より、全国の青年団にとって励みとなるような組織の強化及び拡大に顕著な実績をあげた団体に授与されます。

・後藤文夫賞

一般財団法人日本青年館より、地域の伝統的な郷土芸能を青年が真剣にその伝承につとめ、青年団としての取組の中で意欲的である団体に授与されます。全国青年大会で郷土芸能分野に出場した団体を対象とします。

9. 副賞

すべての受賞団体には賞状が授与されます。また「大賞」「準大賞」「特別賞」には活動奨励金が贈呈されます。審査員賞の活動奨励金については、審査員賞の受賞内容や数により額が変わることがあります。

賞		授与団体	表彰状	活動奨励金	表彰数(最大)
大賞		日本青年団協議会	○	5万円	1
準大賞		日本青年団協議会	○	2万円	1
奨励賞		日本青年団協議会	○	1万円	3
審査員賞	審査会内で決定する	日本青年団協議会	○	審査会内で決定する	
特別賞	田澤義鋪賞	(一財)日本青年館	○	5万円	1
	全国青年団OB会奨励賞	全国青年団OB会	○	5万円	1
	後藤文夫賞	(一財)日本青年館	○	5万円	1

10. 表彰式

2024(令和6)年3月16日(土)に予定している、2023(令和5)年度日青協第3回理事会終了後に実施いたします。詳細については、審査終了後担当者より表彰者または推薦団体にご連絡いたします。

11. 展 示 (予 定)

出品表の提出がある応募作品は、審査会終了後から3月16日(土)までの間、日本青年館1階コンコースギャラリースペースにて展示いたします。

◆昨年度展示会の様子



12. 雑誌「社会教育」への掲載

一般財団法人日本青年館発行の雑誌「社会教育」に、1号につき1件の受賞実践を掲載してご紹介いたします。ただし受賞件数によっては、すべての受賞実践を紹介できないこともありますので、あらかじめご承知おきください。また、紙面の作成にあたっては、当該受賞団体に追加でお話をお伺いする可能性もございます。

<雑誌「社会教育」について>

1946（昭和21）年7月、社会教育連合会（当時。のちに財団法人全日本社会教育連合会に改称後、2012（平成24）年に一般財団法人日本青年館と合併）から、月刊誌「教育と社会」として発刊。のち社会教育法の制定を期に、社会教育のいっそうの飛躍的展開を図るべく、1950（昭和25）年2月に「社会教育」誌へと改題。2021（令和3）年6月号で創刊900号を迎えた。社会教育に関する情報発信を行うとともに、不定期刊行物の編集発行や調査研究を行ってきた。各自治体教育委員会や社会教育関係者、その関係団体などを読者層の中心として、社会教育のハンドブックとして発行されている。

BIG CHANCE!!!!!!

社会教育に携わる多くの関係者に知ってもらえる
こちらの特典は、入賞者のみが対象です

13. 応募・お問合せ先

日本青年団協議会 担当：四至本（ししもと）・佐々木（ささき）
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 日本青年館5階
TEL 03-6452-9025 FAX 03-6452-9026 E-mail soshiki_kyosen@dan.or.jp

以上

お申込書・提出書類がお手元がない方へ

お申込書・提出書類がお手元がない場合は、日本青年団協議会公式 Web サイト

(<https://www.dan.or.jp/intro/>) にアップロードしております。

2022年度以前の部門制度・表彰とは異なるため、募集要項を熟読の上、ご提出いただきますよう

お願いいたします。

※WebサイトQRコードは右記

